

奈良時代から現代へ 市川の国府を知る旅に出よう

奈良～平安時代にかけて、本市には下総国府が置かれていました。近年の発掘調査で、その詳しい姿が明らかになりつつあります。

10月には「国府サミット」の開催や、「下総国府」に関連する新コンテンツの開始も予定しています。

この機会に、国府を知り、歴史を感じる旅に出ましょう。

☎704-8137文化財課

一緒に国府を
見ていきましょう

市川に伝わる伝説のヒロイン **手児奈さん** がナビゲート

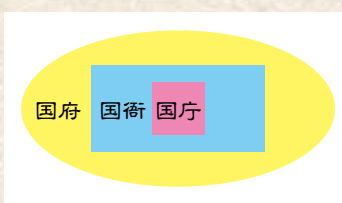
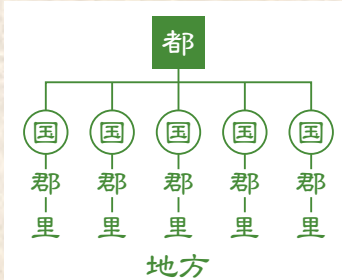
万葉集にもうたわれた伝説の心優しい美女「真間の手児奈」。

国府が置かれた古代万葉の時代へみなさんを案内するナビゲーターとして「国府サミット in市川」では手児奈さんが活躍します。

「国府」をカンタンにおさらい

古代律令制度下の「国府」や本市に置かれた「下総国府」について、その役割や様子を改めて紹介します。

- 律令国家**
- 8世紀(奈良時代)ごろまでに成立した律令(=法)によって、天皇が国を治める国家です。天皇が政を行う都のもと、地方は国・郡・里に分けられて支配されていました。
- 国府**
- 国を治めるため、天皇の代理である国司が派遣された地方の中心地です。国府は国衙と国庁を含む3つの広がりから成り立ちます。
- 国衙**
- 国庁を含む空間で、国の実務を扱う役所やその関連の施設があります。
- 国庁**
- 国司が儀式や政務を行った場所で、そのための広場が設けられています。
- 国分寺**
- 仏教によって国家の安寧が祈られるようになる中、疫病や飢饉を鎮めるために聖武天皇が僧寺と尼寺からなる国分寺建立の命令を出し、主要な交通路からよく見える場所に建てられました。



市川市に置かれた国府 下総国府

国府台と国分台の間の谷を境に、右京と左京に分けられていました。

特徴

下総国の国府は、海・川・陸の三路が交錯する、関東地方有数の要衝であった市川の地に置かれました。また、国府台を中心に東西約3.3km、南北約3.5kmの大きさとなっており、全国的に離れていることが多い国衙と国分寺が近くにあるのが特徴の「コンパクトな国府」です。さらに、国庁や国分寺の屋根瓦を焼く瓦窯や、国分寺の梵鐘などを作る鋳物工房もありました。

右京(現在の国府台)の特徴

① 国衙・国庁

国府の中心となる施設「国庁」は、近年の発掘調査により、現在の千葉商科大学周辺にあったと推定されています。



② 人々が集まりやすい

国府台の南側には、葛飾郡の郡衙や弘法寺の始まりとなる寺、『万葉集』で詠まれた真間の入り江などがありました。

市川砂州端(入り江と東京湾の間)には、今の江戸川の渡し場や、都と地方を行き来する使いが馬を乗り継いだ駅家があったと考えられています。

▶国府台の崖、下総国府の特徴となった地形で、古代では「ママ」と呼ばれ、『万葉集』では地名となっています



左京(現在の国分)の特徴

① 国分寺・国分尼寺

国分台南端の東側に僧寺、西側に尼寺が建てられていました。僧寺には、釈迦仏が安置されていた「金堂」や高さ約60mの「七重塔」がありました。

聖武天皇は、七重塔を備えた国分寺のことを「国華」と呼び、国家の安寧を祈るシンボルとみなしていました。

◀左が七重塔、右が金堂、後ろに見えるのが国分尼寺

② 地形を生かした遺跡

外郭環状自動車道をつくる際の発掘調査で、北下遺跡が確認されました。

この斜面(低地から吹く風で火力を高める地形)を利用して瓦が焼かれたり、境界に流れる川で、罪やけがれを払う「祓え」が行われていました。



▲かつての国分川で「祓え」を行う人々の様子



10月18日(土)午後2時～5時45分 場文化会館(てこなホール)

「国府サミット」当日の観覧募集は、受け付けを終了していますが、サミット終了後、市公式YouTubeチャンネルで当日の様子を配信する予定です。

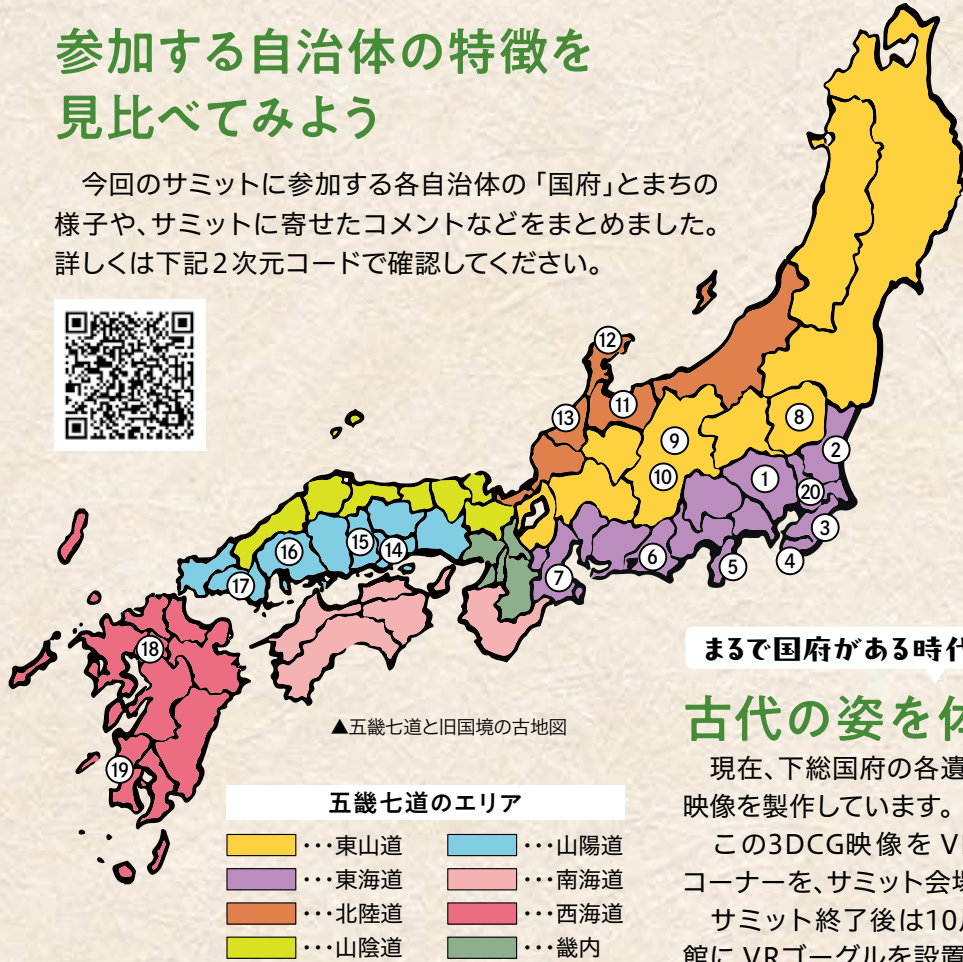
「国府が置かれたまち」の代表者が全国各地から集まり、国府所在地としての歴史や文化、まちの魅力を伝える特別イベントです。

今回は本市を含めて20の自治体に参加し、「下総国」で一堂に会します。

下総に
集まれ～

参加する自治体の特徴を 見比べてみよう

今回のサミットに参加する各自治体の「国府」とまちの様子や、サミットに寄せたコメントなどをまとめました。詳しくは下記2次元コードで確認してください。



【参加自治体一覧】

- ① 東京都府中市(武蔵国)

② 茨城県石岡市(常陸国)

③ 千葉県市原市(上総国)

④ 千葉県南房総市(安房国)

⑤ 静岡県三島市(伊豆国)

⑥ 静岡県磐田市(遠江国)

⑦ 三重県鈴鹿市(伊勢国)

⑧ 栃木県栃木市(下野国)

⑨ 長野県上田市(信濃国)

⑩ 長野県松本市(信濃国)
- ⑪ 富山県高岡市(越中国)

⑫ 石川県七尾市(能登国)

⑬ 石川県小松市(加賀国)

⑭ 岡山県岡山市(備前国)

⑮ 岡山県総社市(備中国)

⑯ 広島県府中町(安芸国)

⑰ 山口県防府市(周防国)

⑱ 福岡県久留米市(筑後国)

⑲ 鹿児島県薩摩川内市(薩摩国)

⑳ 市川市(下総国)

まるで国府がある時代にタイムスリップ

古代の姿を体験できるVR

現在、下総国府の各遺跡を再現・紹介する3DCG映像を製作しています。

この3DCG映像をVRゴーグルで視聴できるコーナーを、サミット会場に設置します。

サミット終了後は10月20日(月)から考古博物館にVRゴーグルを設置予定ですので、体験したい方は足を運んでみてください。



す、すごい迫力っ

実際に trying しよう

デジタルコンテンツでよみがえる下総国府

下総国府に関連する3つの遺跡において、現地でスマートフォンをかざすと、かつて存在していた国庁や七重塔などが現実風景に重なって浮かび上がったり、360°パノラマの再現CGとして見られたりするデジタルコンテンツがスタートします。

当時の建物や風景を再現した臨場感あふれる映像を、スマートフォンの画面越しに体験できます。

また、利用には事前に「ストリートミュージアム®」アプリのインストールが必要です。詳しくは右記2次元コードで確認してください。



国府台遺跡(下総国府)

国庁の建物をはじめ、国府内のさまざまな施設や周辺の風景をCGでリアルに再現。

国司が政務や儀式を執り行った中央広場からの視点で、国庁内をぐるりと見渡せます。

遠景もじっくり見てみると、国分寺の方角に当時の七重塔が見えるかも。



下総国分寺・国分尼寺跡

七重塔や金堂、鐘楼など、当時の国分寺の建物を全てCGで再現しており、当時の全景がよみがえります。

眼前にそびえる高さ60mの七重塔は圧巻。

現在は公園として整備されている国分尼寺跡には、俯瞰視点のCGが出現するポイントを設置予定。当時の国分寺エリア全体を上空から見渡せます。



北下瓦窯跡

住宅と外環に挟まれた狭い遺跡に、工人たちの働く作業場がCGで出現します。斜面に掘られた瓦窯や鋳物の鋳造場からは煙が立ちのぼり、台地上には工房や干された瓦がズラリ。

外環側に目を移すと、かつての国分川で「祓え」の儀式を行う人々も見えます。



過去の国府サミット記事をもとめました

広報いちかわ6月7日号から9面下段の「ちょこっと伝え隊」では本市と国府にまつわるミニ特集を行ってきました。

また、同号から9月20日号の最終面には、時代をさかのぼって楽しめる「年表」を用意しています。詳しくは市公式Webサイト(右記2次元コード)で確認してください。



近年行われた国府の発掘調査

近年の国府台スポーツセンターやその周辺の発掘調査の成果を、発掘調査報告書にまとめました。詳しくは左記2次元コードで確認してください。